

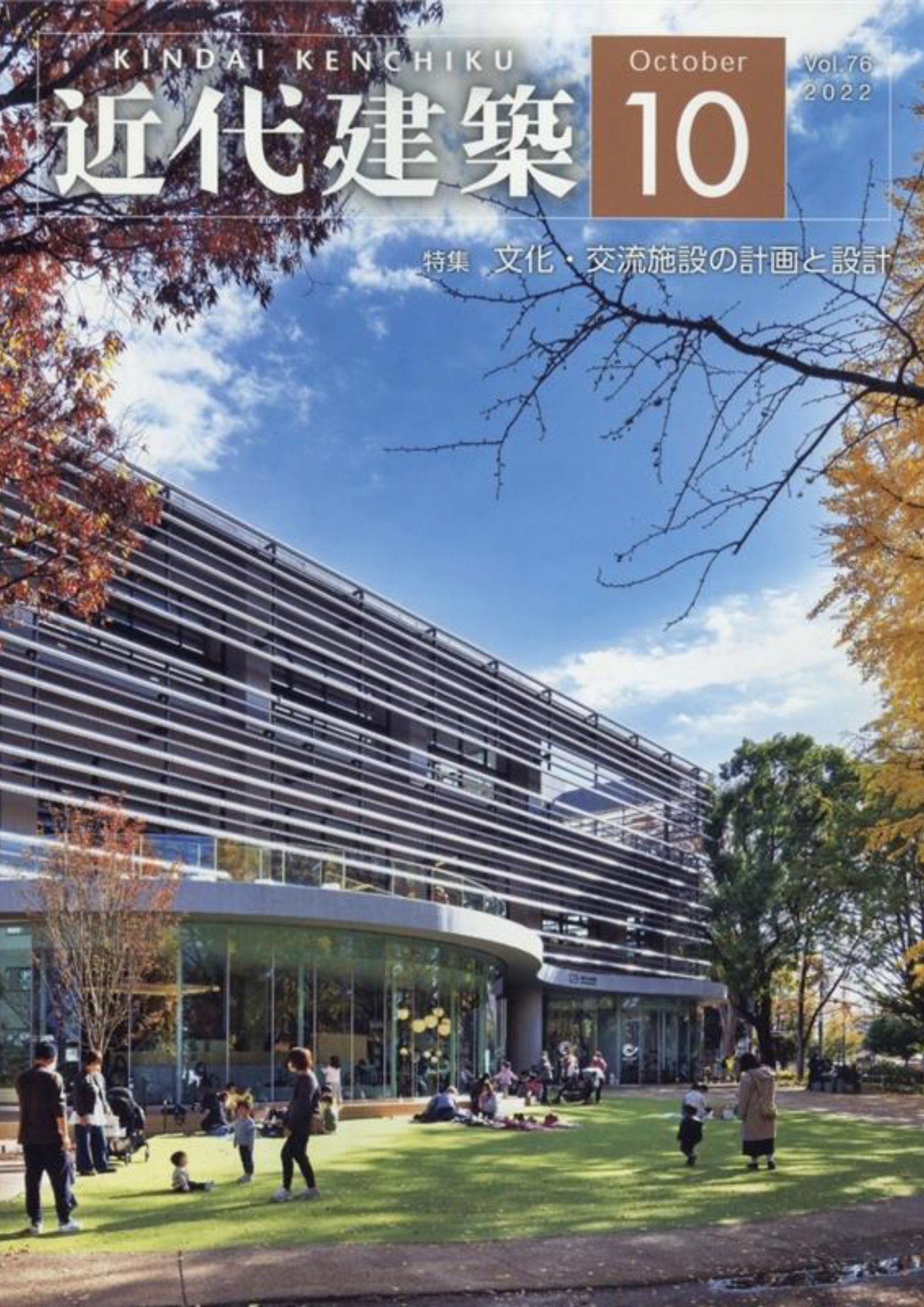
KINDAI KENCHIKU

October

Vol.76
2022

近代建築 10

特集 文化・交流施設の計画と設計



田渕南船場ビル

大阪市中央区

設計・監理／IAO竹田設計
施工／日本建設

TABUCHI





南西側全景

設計主旨

大正6年に創業した海運業を中心とする事業を行う田淵海運本社の移転計画である。

計画地はかつて繊維の間屋街として栄えた船場地区で、徐々に建替えが進むエリアに位置する。

6～11階は本社オフィス機能、3・4階にはテナントオフィスを配置し、テナント入居者もシェアできるカフェテリアや会議室などの機能を持ち合わせており、移転による本社機能の向上とともに、昨今高品質化するミドルサイズのテナントオフィスとしての快適性・エネルギー負荷の軽減といった基本的性能を併せ持つ、ハード・ソフト両面において特徴あるオフィスを目指した。

設計においては田淵海運の企業理念のひとつである『透明・公正・誠実』といったコーポレートアイデンティティを建築として表現することとし、白とガラスを基調としたピュアな佇まいを目指した。また、100年を超える歴史ある企業であることから簡潔な表現とし、端部のディテールは船をイメージした厚みのないエッジにより陰影によってフォルムが浮かび上がる外観デザインとした。

各階に設けた庇は日射遮蔽効果を期待し、室内側では高気密・高遮熱ブラインドによる簡易エアフロー方式を採用することでエネルギー負荷の軽減を図っている。

事務所空間の可変性をもたすため、メインフレームを1スパンでの構造計画とした。また本社機能におけるBCPとして耐震基準を1.25倍相当の計画とし、設備計画においては空調方式の使い分けや5日間の非常用電源の確保などを行った。

1階の共用部には水や波をイメージしたガラスアートを組み込み、海運業の企業イメージを印象づける空間としている。

各階の庇やトップには3色のコーポレートカラーにゆっくりと変化する建築照明を配し、船場の街に新たな光を灯す灯台のような存在として、変化を続ける街の中に灯り続ける。

(佐山義明/IAO竹田設計)



佐山 義明……さやま よしあき

1986年栃木県生まれ。2010年前橋工科大学大学院工学研究科修了。同年IAO竹田設計入社。現在、同社東京第二事務所 室長



エントランスアプローチ



エントランスホール

内装設計主旨

— 2階カフェテリア、6・10・11階フロア

担当する各フロアにはそれぞれ意味合いを持たせながら内装を作り上げている。地球上に存在する『アースカラー』を各空間に採用することで、癒しやリラックスできる環境作りへと変化させる。意識を変えるためのオフィスにすることで、人も変化して欲しい。

2階カフェテリアは『停泊する船、海沿いに建つ食堂』がテーマである。エリアごとに雰囲気を感じ取れるマテリアルを使用し、テラスで風の音を感じながら、船に佇む空間とともにリラックスできる構成としている。

6階レセプションホールは『海面』がテーマである。水槽と一体感のある空間演出とし、『海面』を空間的に表現することを目指した。つい時間を忘れてしまうようなレセプションスペースとしている。

10階ワークスペースは『ふもと・小川』がテーマである。自然豊かなふもとと空間。青空に雲があり、風を感じる気候の良い状態を表現し、魅力的で集まりたくなる空間を目指した。11階ワークスペースは『丘・高台』がテーマである。最上階であることから周りを見渡せる高台を表現し、空・大地・海・植物の全てを空間に取り入れた計画とした。

(中嶋克明/ヴィス)

— 5・7・8・9階フロア

各フロアの稼働率を効率的に引き出すプロセスにおいて、各部署の意見集約、合意形成を組み込みながら設計することが求められた。移転前の執務室で使用している既製品什器を最大限に転用配置し、その余白に空間の連続性を保つように造作家具を挿入した。造作家具は、造船の製造過程からその形態、マテリアルを要素として抽出し、空間として

編集することで、海運会社としてのブランディングを体現・発信するメディアとしてのオフィス空間を目標とした。

多様な場の使われ方を下支えする、最適化された家具と、それを統合するストレージを各部署に納め込むことで、働き方の変化に伴う多様な場の使われ方を許容する、多機能な空間を作った。

(千葉智彦/ファンド)



中嶋 克明……なかじま かつあき
1973年大阪生まれ。大阪工業大学建築学科卒業。現在、ヴィス クリエイティブ第2事業部 デザイナー



千葉 智彦……ちば ともひこ
1983年生まれ。日本大学大学院理工学研究科建築学専攻修了。2019年VAUND株式会社設立。現在、同社代表取締役



左上/2階カフェテリア 中上/6階レセプションホール 右上/10階ワークスペース
左下/5階ワークスペース 中下/7階ワークスペース 右下/大会議室



1階エレベーターホール



11階オフィスフロアエレベーターホール



4階テナントフロア

施工計画

大阪市中央区内の3方を囲まれた敷地であり、仮設、デザイン、仕上げ共に非常に施工難易度が高いと感じる建物であった。



鉄骨建方施工状況

着工して間もなく、地中障害が発生し撤去に時間を費やしたが、スタッフや協力会社の協力により概ね工程通りに工事を進めて行くことができた。

外部ファサードはカーテンウォールを中心にその廻りにはアルミパネル張り、他3面はALC塗装、屋上にはアルミルーバーといった様々な仕上げがあり、納まり、施工調整等に苦労した。

試験点灯時にライトアップされた外観を見たときには非常に感銘を受けた。周辺にはない、クライアントのイメージにふさわしい建物に

なっているように感じた。

施工の過程で様々な困難があったが、無事引渡しができたことに安堵している。

クライアントにも恵まれ、このプロジェクトに関われたことは自分の自信にもなり、非常に良い経験になったと感じている。

(高垣 充彦 / 日本建設)



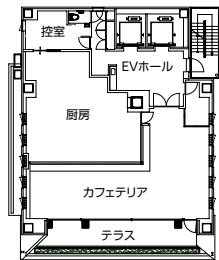
高垣 充彦……たかがき みつひこ
1976年和歌山県生まれ。1995年和歌山工業高等学校建築科卒業、同年高野建設入社。2006年日本建設入社。現在、同社大阪支店工務部工事課作業所長

田洲南船場ビル データ

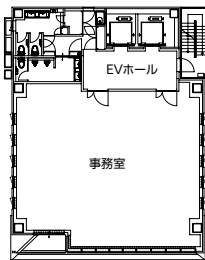
所在地 大阪市中央区南船場2-3-11

主要用途 事務所、店舗

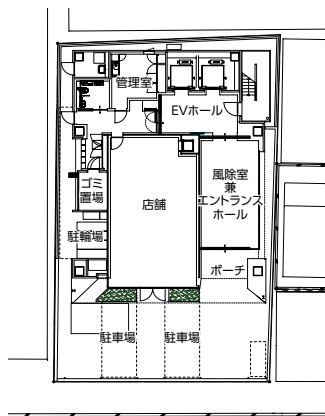
建築主 住華運輸株式会社



2階平面図



基準階平面図



配置・1階平面図 縮尺1/500

設計・監理 IAO竹田設計

担当/総括：多々良洋介

建築：佐山義明、長峯佳代 設備：富原 慶一

品質管理：前田 和則

構造 フレームワークス 担当/篠原昌寿、金川晃一

内装設計・監理 (2階カフェテリア、6・10・11階事務室)

ヴィス

担当/西谷久伸、中嶋克明、正村佳弘、木下拓馬、

宮本和樹

内装設計・監理 (5・7・8・9階事務室)

ファンド

担当/千葉智彦、齋藤圭祐

施工 日本建設

担当/西萩 隆、高垣充彦、阿部匠郎、杉本由美子、

武井成道

設計期間 2020年7月～2021年4月

工事期間 2021年5月～2022年7月

【建築概要】

敷地面積 329.47㎡

建築面積 199.80㎡

延床面積 2,196.45㎡

建ぺい率 60.65% (許容100%)

容積率 621.47% (許容800%)

構造規模 S造 地上11階

最高高さ 46.85m

軒高 42.72m

階高 4.5m、3.85m、3.75m

天井高さ 事務所：2.7m カフェテリア：2.7m

主なスパン 11.8m×9.25m

道路幅員 12m

駐車台数 2台

地域地区 商業地域、防火地域

【設備概要】

電気設備 受電方式/高圧6.6kVキュービクル 変圧器容量/動力200kVA×1、電灯100kVA×2スコット10kVA×1 予備電源/43kVA

空調設備 空調方式/室外機：空冷パッケージエアコン (ビルマルチ方式) 熱源/電気・ガス 換気/機械換気：

全熱交換機による第一種機械換気方式 (24時間換気対応)、天井扇による第三種機械換気方式

衛生設備 給水/直結増圧式給水方式 給湯/小型電気温水器方式 排水/屋外合流方式(汚水・雨水)、屋内合流方式(汚水・雑排水)

防災設備 消火/連結送水管、消火器、誘導灯、自動火災報知設備、非常放送設備、非常コンセント設備、火災伝走防止設備 排煙/自然排煙

昇降機 乗用2基

【主な外部仕上げ】

屋根 塗膜防水

外壁 アルミパネル ウレタン塗装、アルミカットパネル ウレタン塗装、光触媒塗装

建具 アルミ製建具

外構 花崗岩JB仕上、インターロッキング、コンクリート

【主な内部仕上げ】

事務室 床/タイルカーペット、塩ビタイル 壁・天井/ビニルクロス、EP塗装

エントランスホール 床/花崗岩JB仕上 壁/花崗岩水磨き仕上、内装薄塗材、ガラスアート 天井/アルミカットパネル ウレタン塗装

エレベーターホール 床/花崗岩JB仕上 壁/花崗岩水磨き仕上、不燃木パネル、ステンレスパネル ビーズプラスト仕上、ガラスアート 天井/EP塗装

撮影/㈱エスエス 大阪支店

協力会社
(当社記入欄)

日本建設 大阪支店寮 咲都

兵庫県西宮市

設計・監理／日本建設 大阪支店 一級建築士事務所
施工／日本建設





北側外観

計画概要

大阪市中央区に支店を構える、日本建設の大阪支店の若手(独身)社員寮の計画である。寮生に良い環境で生活してほしいという思いから、会社の近く・駅の近くではなく、西宮市上甲子園という住宅地に建設地が決まった。周辺は戸建て・低層のマンションが多く建ち並んでおり、学校もある地域のため、周囲に調和しながらも存在感があるような建物を計画した。

設計主旨

寮生みんなで住む第二の実家のような存在になってほしいという思いから、下足のまま自室に向かうのではなく、寮に帰ってきたらまず共同の玄関で靴を履きかえ、そこから自分の部屋に向かうシステムとした。廊下に設置する窓は、スラブからスラブまでのサッシとし、幅・サッシ形状を変え、リズム感のある配置とすることで、単調になりがちな廊下側のファサードに動きを持たせ、咲都寮の顔となるデザインとした。同様に長手方向で単調になりがちなバルコニー側についてもRCの手摺壁、格子手摺、ガラス手摺、マリオン

を使い分け、配置することで、北面のファサードと統一感のあるデザインとした。さらに、水、光、緑のバランスを考え、外構では水盤を設け、積極的に緑化を行い、食堂は折り上げ天井内に仕込んだ間接照明とペンダントライトによる照明計画により、寮生に癒しを与える工夫を施した。

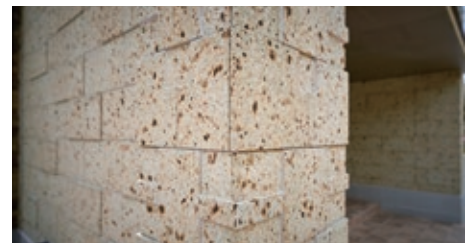
この建物の1番の特徴は、「S造の建物をRC造のように見せたい」というところである。開口制限や躯体のボリューム感によりプランに制約がでてしまうことからS造を採用したが、RC造のような重厚感や重みは表現したい。そこで、各階スラブのコンクリートをあえて見せて際立たせた横ラインやパラペットはRC造と思わせるには十分な要素となった。また、外壁材にはALCを使用しているが、外断熱工法を用いて目地を目立たなくすることで「RC造のようなS造」を実現した。それに加え、直感的な重さを表現するために1階のみ仕上げを変え、1階の外壁仕上げはスクラッチタイルと大谷石貼りとし、上階は明るめの色味を採用し、対比によりさらに足元の重厚感にこだわった。特に1階周りには5年10年先にどのように味わいが出てくるのか楽し

みである。察らしくない寮を目指したこの建物は、意図通り、社員寮だと連想しにくい仕上がりになったと言えるだろう。

環境への配慮

咲都寮は、BELS (ZEH) 認証取得にも取り組んだ。自然環境への配慮はもちろんのこと住環境に配慮することにもつながり、日常生活の質を向上させる手段としては、咲都寮に限らず今後は基本仕様となるのではないだろうか。

(北本順子/日本建設)



上/大谷石貼りディテール 下/アプローチの水槽



北西側外観夜景



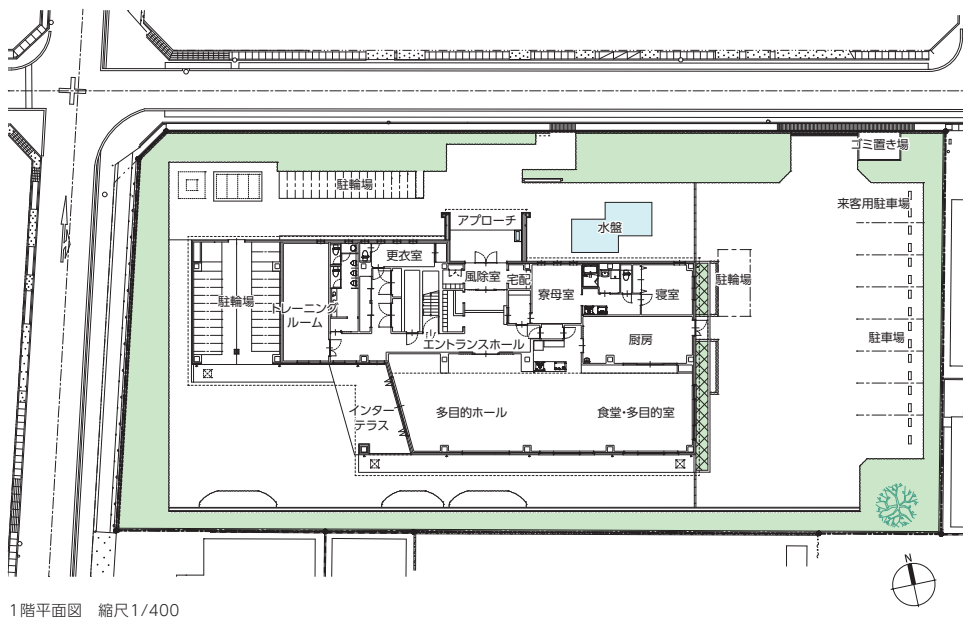
上/北西側俯瞰 下/水盤



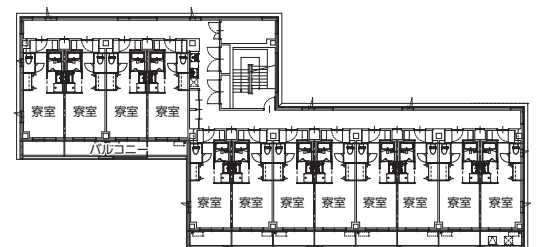
上/ポーチ 下/エントランスホール



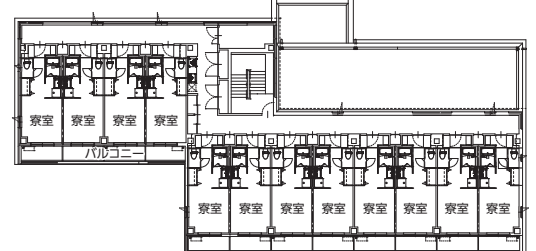
食堂・多目的室



1階平面図 縮尺1/400



3階・4階平面図



2階平面図



上/北東側外観 中/食堂・多目的室 利用時の様子* 下左/トレーニングルーム* 下右/寮室*

施工計画

今回の計画地周辺には近くに学校があり、周りには住宅地で囲まれている場所での工事である。計画地前の道路は交差点付近に位置し、児童用通路でもありながら一方通行であり非常に厳しい搬入条件で周囲には気を遣う立地条件であった。

今回の計画建物の大きなコンセプトの1つとして鉄骨造をコンクリート造のように見せることを主旨として設計しているため、建物の外周部はすべてコンクリートをスラブラインで跳ねだしてあり、当然バルコニー部分もすべてコンクリート造で設計されていることから1フロアずつ積み上げ方式で躯体を作る必要があったため、躯体サイクルを細分化して工程を作

成し、工期短縮のための調整・管理を行った。照明計画での打ち合わせにおいて、器具の選定は、実際に現場で夜間に仮設照明を用いて確認し、最終的に照度、色等を検討した上で、バランスよく取付器具・配置の決定を行った。内装デザインもこだわりが強く、非常に厳しい工程の中での施工であったが、工事のみならず、本計画に携わって頂いたすべての方々の協力で無事故・無災害で竣工を迎えることができた。(北川嘉修/日本建設)



北川嘉修……きたがわ よしまさ
1997年福岡県生まれ。2015年福岡市立博多工業高等学校卒業、同年日本建設入社



高 大栄……こう だいせい
1975年大阪生まれ。1997年近畿大学理工学部建築学科卒業後、工務店、設計事務所勤務を経て、2020年日本建設入社



北本 順子……きたもと じゅんこ
1995年兵庫県生まれ。2018年摂南大学理工学部住環境デザイン学科卒業、同年日本建設入社

日本建設 大阪支店 咲都 データ

所在地 兵庫県西宮市上甲子園4-13-3

主要用途 寄宿舎

建築主 日建ホールディングス株式会社

設計・監理 日本建設大阪支店 一級建築士事務所

担当/総括：高木康司 建築：高 大栄、北本順子

構造：内村友重 設備：柿田秀史

施工 日本建設

担当/北川嘉修

設計期間 2021年1月～2021年9月

工事期間 2021年10月～2022年4月

【建築概要】

敷地面積 1,822.49㎡

建築面積 555.42㎡

延床面積 1,651.45㎡

建ぺい率 30.48% (許容60%)

容積率 87.13% (許容200%)

構造規模 5造 地上4階

最高高さ 13.3m

軒高 12.8m

階高 1階：3.20m 2階：3.15m 3階：3.10m

4階：3.00m

天井高さ 2.5m

主なスパン 6.2m×6.75m

道路幅員 6.09m

駐車台数 9台

地域地区 第1種住居地域、第5種高度地区

【設備概要】

電気設備 受電方式/高圧6.6kVキュービクル 変圧器容量/電灯50kVA×1 動力100kVA×1

空調設備 空調方式/空冷ヒートポンプパッケージ(天井埋込型、天井カセット型、壁掛けルームエアコン) 熱源/電気

衛生設備 給水/受水槽加圧方式 給湯/ガス給湯暖房機 排水/合流方式

防災設備 消火/消火器 排煙/自然排煙

【主な外部仕上げ】

屋根 外断熱露出アスファルト防水

外壁 ALCT=100の上、外断熱システム/断熱材の上クラッチタイル貼、大谷石貼

建具 ステンレス製建具、アルミ製建具

外構 タイル、土間コンクリート、芝、アスファルト舗装

【主な内部仕上げ】

寮室 床/長尺塩ビシート 壁・天井/ビニルクロス

食堂 床/フロアタイル 壁・天井/ビニルクロス

トレーニングルーム 床/人工芝 壁/グラスウールガラスクロス押え、ビニルクロス 天井/ビニルクロス

撮影/BuddyP 長屋 明 *撮影/近代建築社(清水向山)

協力会社

鉄骨工事	新免製作所
外断熱工事	菅沼工業
鋼製建具工事	三和シャッター工業
石工事	石商ニシダ
組積工事	セルドム・シントー
塗装工事	長谷川塗装
木工事(造作工事)・木製建具工事	洲本工務店
外構工事	仲林建設